

## 2019年度第3回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日時：2019年6月12日（水） 午後6時30分から
- 2 場所：国分寺労政会館 第1和室（3階） （国分寺市南町3-22-10）
- 3 議決権のある理事：7名  
出席者：座間直壯、田中ヒロ、堀 渡、堀越洋一郎  
欠席者：清田義昭、齊藤誠一、手嶋孝典  
事務局：

### （1）第1号議案 会員の動向について【報告】

- ・2019年5月19日（総会時）現在  
正会員83名2団体 賛助会員42名1団体、計125名3団体（合計128）
- ・2019年5月19日（同日、総会后）  
正会員84名2団体 賛助会員43名1団体、計127名3団体（合計130）  
※ 総会後の懇親会で正会員1名、賛助会員1名入会
- ・2019年5月24日  
正会員83名2団体 賛助会員43名1団体、計126名3団体（合計129）  
※ 正会員1名ご逝去により退会

### （2）第2号議案 2019年度総会及び記念講演の結果について【報告・協議】

- ・総会は、本人出席24、委任状40 計64（人・団体）で成立した。
  - ・6本の議案は、提案通り全て承認された。
  - ・新しい動きや提案ができない総会だったが、「TAMALAS 個別処理システムの活用実態調査」の自治体向け報告書のコピー配布と説明は、具体的な情報提供になったのではないかと。
  - ・総会の最後に、理事を退任する矢崎さんに対して謝意を伝え、挨拶をしていただくことができなかった。
  - ・総会記念講演会の参加者は、会員27、非会員15、計42人で反響が大きかった。この時期、「出版ニュースの休刊」と清田さんの発言に注目が高かったのではないかと。講演時間を長くできないのが残念だった。→ 今後何らかの形で清田さんのお話を伺える場を作ることを考える。
  - ・総会では質疑があつて時間がかかったわけではないのだが、今回も予定時間を超過し、記念講演会を含めて午後5時に退室するには、時間がぎりぎりだった。  
→ 質問を受けられるような時間設定が必要。来年度は総会の開始時間を15分程度以上は早めることを検討する。
  - ・講演会でのブックレット販売 21冊
  - ・懇親会には23人の参加者があり、7名は会員外。総会後の懇親会というだけでなく、今回は講師との懇親の要素も強かった。初の会場だったが、途中で席替えをすればよかった。
  - ・会員への総会報告+理事長・副理事長互選の理事会の報告+監査報告を本日発送した。
- ※総会で配布した「TAMALAS 個別処理システムの活用実態調査報告」のコピーは、総会出席者以外の会員には、7月に発行する『通信』に同封する。

(3) 第3号議案 総会後の諸手続きの現状について【報告】

- ・ 以下のように、多くの手続き、届け出が滞りなく行えた。
  - ・ 法人税申告・納付 (5/31 期限)
    - ⇒ 5/21 武蔵府中税務署申告 5/21 立川都税事務所 5/22 調布市 終了
  - ・ 登記所へ役員変更登記申請(2週間→5/31 期限) ⇒ 5/23 申請手続き済
  - ・ 東京都へ定款変更認証申請(遅滞なく=2週間→5/31 期限) ⇒ 5/21 申請手続き済
- 今後の見通し：都の申請受理から 3 か月以内に認証決定通知が届く →東京都へ閲覧用書類を提出(遅滞なく=2週間)
- ・ 東京都へ役員変更届提出(遅滞なく=2週間→5/31 期限) ⇒ 5/21 提出済
- ・ 東京都へ事業報告等提出(6/28 期限) ⇒ 5/21 提出済
- ・ 貸借対照表のHPでの公告(遅滞なく=2週間→5/31 期限) ⇒ 5/21 済

(4) 第4号議案 顧問の委嘱について【報告・協議】

- ・ 事務局から、2017 年度、2018 年度に引き続き、津野海太郎氏、平山恵三氏に顧問をお願いすることを提案。承認する。
  - 理事長からお二人に依頼する。

(5) 第5号議案 財政改善に向けた見直しと検討について【報告・協議】

- ・ 新年度の準備の中で、2月の理事会では、会費の値上げを総会に提案することも仕方がないと議論した。しかしその後、これまでに総会以外の場合で会の財政状況を会員に伝えることを行っておらず、このままの値上げ提案では唐突過ぎると、総会での会費値上げ提案は見送って新年度が始まっている。
- ・ 現在は、年度末には思いがけず大口の個人寄付があって、一息ついている。また『通信』第50号で会員に財政ひっ迫の状況を伝えたところ、新年度会費に寄付金を上乗せして振り込まれることや、単独の寄付の入金が何件もあった。
- ・ しかし長期的に見れば、会の発足時にあった資金を十数年でほぼ使い果たし、毎年度の(寄付金を含む)収入に見合った支出で活動をやらなければならない状態に立ち至っている。
- ・ 今後も寄付の呼びかけや収入を上げられる取り組みを模索し、また出費のかさむ活動の見直しも図りながら、来年度の総会に向けて、一年かけて財政状況の見通しや会費の値上げ問題を検討し、それを会員にも情報提供していく。
- ・ 具体的には次回の理事会以降、事務局から検討資料を提出する予定。

(6) 第6号議案 『多摩デポブックレット第14号』制作の現状について【報告】

- ・ 新年度予算でブックレット1冊の発行が承認されたので、直ちにけやき出版に入稿。現在二校作業中。順調に進めば7月半ばまでには発行できる見通しである。なお、現在は印刷用紙が紙不足の状況で、これまで使用していた用紙の価格が高騰している。そのため紙質を変更して値上げ幅を抑えてもらう予定。
- ・ 2月理事会で承認したので、第14号からは本体価格を800円に値上げすることになる。
- ・ 関連して、従来の会員価格「本体価格-80円(旧メール便送料分)」を、バックナンバーも含めて今後は一律に「本体価格の1割引」に変更したと事務局から提案があり、了承した。

(7) 第7号議案 (株)カーリルとの共同研究について【報告・協議】

(1) TAMALAS 個別処理システムについて

「TAMALAS 個別処理システム活用実態調査」に各自治体から書かれてきた質問、疑問について、回答を返していく。

(2) TAMALAS 地域説明会……未実施の武蔵野・三鷹・小金井・狛江市について

(3) TAMALAS 一括処理システムについて

IDとパスワードの発行は、5月14日に武蔵野市(市内3館分)から申請があり、4自治体(国分寺市、西東京市、清瀬市、武蔵野市)になっている。「一括処理システム」申請館へ活用実態の聞き取り調査は未着手だが、近く行う予定。

(4) 共同研究の次の課題 (ISBN が付与されていない資料の同定) について

- ・議論を続けている。
- ・オープンブックカメラを使って、多摩地域では広汎な図書館で所蔵しているような (ISBN が付与されていないことの多い) 地域資料の同定について、実証実験的なことを行いたい。
- ・多摩川を主題にする資料を対象に行ってみる。地域資料の棚の中で、その分類で蔵書が集まっている調布市立中央図書館で休館日に書影をまとめて取らせてもらい、書影と蔵書データを紐づけしてみたい。8月27日(火)に作業を予定している。

(8) 第8号議案 第36回多摩デポ講座の企画について【報告・協議】

- ・全国公共図書館協議会(全公図)が行った、新たな公立図書館の悉皆調査の結果がまとまり、3月に公表された。全公図の事務局のある東京都立図書館のHPから全文が読める。
- ・『2018年度(平成30年度)公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』  
<https://www.library.metro.tokyo.jp/zenkoutou/report/2018/index.html> (抜粋は資料としてプリント、本日配布)を取り上げ、ようやく初めて調査が行われた、全国の公立図書館の「保存」、「除籍」、「県域での共同保存」の結果を読みとき、その実態と問題点、今後の展望を考える講座を開催してはどうか、と事務局より提案、承認された。
- ・この調査に携わった県立図書館職員の委員と、助言者である伊藤民雄氏(実践女子大図書館)に講師に来ていただけるとよいのではないかと。  
→編集委員の星野翼氏(埼玉県立久喜図書館)が引き受けて下さることになった。星野氏  
が対応可能な8月5日(月)で開催できるように調整する。伊藤氏にも打診中。
- ・現役の職員や館長、「除籍資料担当者会」の方にも呼びかけ、参加してもらえるとよい。

(9) 第9号議案 『多摩デポ通信』第51号の発行について【報告・協議】

- ・『多摩デポ通信』第51号の誌面構成の予定
  - ・総会報告
  - ・記念講演会報告及び参加者からの感想(芳賀氏より届く、平形氏は未着)
  - ・TAMALAS 活用実態調査報告書とその後の対応
  - ・カーリルとの共同研究報告

- ・『2018年度（平成30年度）公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』の紹介(鬼倉)
- ・第36回多摩デポ講座の案内
- ・矢崎さんの理事退任の挨拶、顧問が決まれば顧問からの挨拶も？
- ・その他（奥多摩ブックフィールド問題？高知県立図書館問題？ほか）
- ・財政ひっ迫記事の反響に大勢の寄付が寄せられたことのお礼と、引き続きのお願い  
→ お願いだけでなく、ブックレットの値上げなど具体的な取り組みも書く
- ・発行日は、7月中～下旬（ブックレット完成後すみやかに）
- ・同封物…「TAMALAS 活用実態調査報告」コピー、『ブックレット第14号』本誌、講座チラシ

## (10) 情報交換

- (1) 事務所のハードディスクへのデータ保存を行いたい。事務所担当で作業を開始してみる（初回として6月30日に）。
- (2) 出版ニュース社が所蔵していた図書、雑誌等の整理作業とその後の展開について
  - ・3月から4月にかけて、社内ですず、多摩デポメンバーを含むボランティアが簡易な目録作成を行った。
  - ・そのうち出版関係資料（約2850冊）、出版関係社史・団体史（約380冊）は、「奥多摩ブックフィールド」に移送し、5月3、4日で開梱・排架を行い、6月1日に再訪、手直し。
  - ・図書館およびレファレンス関係資料(約600冊)は、図書館で有効活用してもらえばよい、と清田代表の意向で、一時、デポ事務所に移送、預かり中。
  - ・新館建設を控えた多摩市立図書館が引取り検討中。その後に、東北に相談する。
- (3) 関連して「奥多摩ブックフィールド」には、出版科学研究所で収集していた、1985年から約10年分の雑誌創刊号コレクションが運ばれている。
  - ・同研究所の移転に伴い、置ききれなくなったもの。なお、明治10年代からの「雑誌創刊号コレクション」があることを謳っている都立多摩図書館には、寄贈を打診したが断られた経過があるとのこと。しかし、「奥多摩」で開梱と現物のチェック作業を一緒に行ったが、都立多摩の所蔵リストにあるのは持ち込まれた現物の6～7割くらいだった。“柔らかい”ジャンルがかなりある。7月にも作業あり。
- (4) 「奥多摩ブックフィールド」について
- (5) 高知新聞社の取材（高知県立大学図書館が新築移転に伴い、2018年春までに起こしていた大量除籍・焼却処理問題に関連して）
  - ・6月5日に座間と堀が取材を受け、この間の「多摩デポ」の取組みと現在の図書館界の除籍と保存、共同保存、除籍資料の有効活用などについて考えを聞かれた。記者は「里親事業」という「多摩デポ」のマッチング事業（記者の言葉）にも大きな興味を示した。記者はその後、調布市立図書館の高架下資料保存庫を訪問。移転前から高知県立大学図書館にはそもそも書庫がなかったらしい。

## 【多摩デポ関係記事】

- ・『多摩川流域所在アーカイブズの情報集約・公開に関する調査・研究—地域持続のために—公益財団法人とうきゅう環境財団 2017・2018年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調

査・試験研究助成金研究結果報告書』宮間純一 2019.3 p12～

※「4 研究の概要 4-2 多摩地域におけるこれまでの取り組み」の中に多摩デポに触れた箇所あり

・堀 渡「私の関わり、有難かったこと」『くらしを彩る』国分寺市民のための図書館づくりの  
会会報 no. 158 「宮川ひろさん追悼号」 2019.4.16 p5

※「NPO 多摩デポ」発足時の呼びかけ人だった児童文学者故宮川ひろ氏に関わる思い出

【共同保存図書館関連資料】

・『2018 年度（平成 30 年度）公立図書館における蔵書構成・管理に関する実態調査報告書』全  
国公共図書館協議会 2019.3

- ★ カーリルとの共同研究 第 40 回定例会 7 月 11 日（木）午後 6 時 30 分～  
会場：国分寺労政会館 第 2 会議室
- ★ 次回の事務局会議(2019 年度第 4 回) 7 月 15 日（月）午後 6 時 45 分～  
会場：調布たづくり 11 階みんなの広場 3 番テーブル
- ★ オープンブックカメラによる多摩川関係資料蔵書の一括データ化の実証実験  
8 月 27 日（火）午前 10 時～ 会場：調布市立中央図書館地域資料コーナー（休館日）
- ★ 次回の理事会 8 月 日（ ） 午後 時 分～

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として 2 名を選任することを諮り、堀 渡理事、堀越洋一郎理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2019 年 6 月 12 日

議長

議事録署名人

議事録署名人